

ソフィア 3月号

ゆきどけの しらせが
おがわをつたわり
ウロコにひびいて
はる・はる・はるがきた
こおりを すかして
ひかりが まぶしく
せびれに きらめき
はる・はる・はるがきた

ゆきどけ
こぶなようこ

くどうなおこ
のはらうたより



昨年春から一巡して、子どもたちは、それぞれに大きくなりました。
今年は大雪で大変なこともありましたが、自然は律義に春を運んできてくれています。

『漫画 君たちはどう生きるか』（マガジンハウス）の勢いがとまらない。

・新聞で紹介されていた児童文学を原作にした漫画です。『どう生きるか！』の、真っ直ぐな問いかけが今の時代に合っています。新聞には、「みんなどこか不安で先行き不透明な時代だからこそ、こうした直球の言葉と内容が響くのでは」と書かれてありました。コペル君と呼ばれる丸眼鏡をかけ物事をまっすぐにとらえる少年とその少年の良き相談相手の叔父さんを軸に友達との関わりから、どう生きていくのかを考えさせられる漫画です。

先ごろ98歳の天寿で召された俳人の、金子兜太（かねことうた）さんは、戦争を体験され、人間のたくましさやはかなさや思いやりやさまざまな光景を前にして「あー、人間っていいなあ」と思われたそうです。戦争という極限の状態にあるときにでも、「人間っていいなあ」という場面に出会ったことはその後の生き方に影響していると生前話されていました。『漫画君たちはどう生きるか』の中で、「いま君は、大きな苦しみを感じている。なぜそれほどまでに苦しまなければならないのか。それはね、コペル君、君が正しい道に向かおうとしているからなんだ。」「人間が人間同志、お互いに、好意をつくし、それを喜びとしているほど美しいことは、ほかにありはしない。そして、それが本当に人間らしい人間関係だと。コペル君、君はそう思わないかしら。」と、直球の叔父さんの言葉が胸を打ちます。

つらいとき、悲しいとき、に本来の人間としてのふるまいができる人になりたいものです。

その力の源は、乳幼児期に育った「自分には能力がある」「自分は愛されている」の思いです。「人間っていいなあ」という思いを持つ人に成長してほしいと願います。

私たちは、子どもたちにその思いを持つふるまいやことばをいくつかつけられたのかしら？とふりかえります。課題をよりよく変える努力をし評価していただいたところはよりよくのびし、地域に根差した園へまた来年度も力をつくしていきます。

今年度も今月で終了します。

1年間、あたたかいお力をいただきありがとうございました。